春の都市緑化推進運動　4月1日から6月30日

―花と緑のまちづくり―

4月から6月は春の「都市緑化推進運動」期間。「花と緑のまちづくり」をテーマとして、期間中にさまざまな取り組みが進められている。都市の緑化活動は、地球温暖化対策や生物の多様性確保の観点からもその推進が求められている。緑豊かで快適なまちづくりの実現に向けては、公共空間だけでなく民間スペースも含め、地域一体で取り組む必要がある。5月4日は「みどりの日」。新緑や色とりどりの花が咲き競うこの時期に、都市緑化の重要性を再確認したい。

2023年度　福島県公園関係事業

●県事業

事業主体		公園名	事業内容
福島県	交付金事業	あづま総合運動公園（福島市）	運動施設更新
		逢瀬公園（郡山市）	園路更新
		東ヶ丘公園（南相馬市）	休養施設、園路等更新
		いわき公園（いわき市）	休養施設、管理施設等更新
		福島空港公園	休養施設更新

●市町村事業

事業主体		公園名	事業内容
福島市	交付金事業	舘ノ山公園　ほか	休養施設、遊戯施設更新
郡山市		開成山公園	公園施設整備（Park-PFI）
		池田公園　ほか	遊戯施設更新、長寿命化計画更新
いわき市		三崎公園　ほか	休養施設、遊戯施設更新
白河市		鶴子山公園　ほか	休養施設更新、長寿命化計画更新
南相馬市		夜ノ森公園　ほか	遊戯施設更新
本宮市		花山公園　ほか	遊戯施設更新、長寿命課計画更新
鏡石町		鳥見山公園	管理施設改修設計
下郷町		大川ふるさと公園	管理施設等更新※特定地区公園事業
西会津町		さゆり公園	管理施設更新
猪苗代町		亀ヶ城公園	運動施設更新
泉崎村		さつき公園	運動施設更新
小野町		小野公園	運動施設更新

5月4日は みどりの日

仙台で全国都市緑化フェア　6月18日まで

第40回全国都市緑化仙台フェア「未来の杜せんだい2023～Feel green!」が26日開幕した。仙台市の青葉山公園追廻地区をメイン会場に6月18日まで開かれる。主催は仙台市と都市緑化機構。

緑の大切さや緑を生かしたまちづくりなどの普及啓発活動として、1983年から全国各地で開かれている国内最大級の花と緑の祭典。

メイン会場の青葉山公園には、造園関係団体・企業が49作品の庭園（各30平方㍍）を出展しているほか、イグネをモチーフとした5つの庭園や、「はなばた飾り」と名付けた大花壇などが配置。樹木や芝生を活用した体験、イベントも用意されている。

出展された庭園はコンテストが行われ、19日に造園関係の学識経験者と専門家、主催者による審査（審査員長・渡部桂東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授）で金、銀、銅の各賞が決まった。

本県造園建設業協会も日本造園建設業協会県支部、日本造園組合連合会県支部と連名で、作品名「ゆるやかに登り行（ゆ）く」を出展し、銀賞に輝いた。施工と期間中の維持管理は県造園建設業協会相双支部の担当。

▲全国都市緑化仙台フェアに出展し、庭園コンテストで銀賞に輝いた県造園建設業協会等の「ゆるやかに登り行（ゆ）く」

テラス席

今月26日～6月18日まで開催の「第40回全国都市緑化仙台フェア」で、仙台市の青葉山公園追廻地区等をメイン会場に第40回全国都市緑化仙台フェアが開催される。「杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く」がコンセプト。幼かった緑も少しずつ色濃くなっていく、今の季節の開催に心躍るものがある。そのフェアに県造園建設業協会が一つの庭を出展した。

相馬野馬追をイメージして馬蹄の形のように緩やかに上がっていく径。その径を登り切ったところの頭上に広がる空は、智恵子が愛したほんとうの空。中景は、中山風穴（下郷町）のように涼風が吹き抜ける石垣。広場は、中通りの盆地を思わせる。

福島の見逃せない景色を随所に織り込みながら、大好きなふる里「ふくしま」の傷が少しずつでもすべて癒えることを心から願って「ゆるやかに登り行（ゆ）く」というタイトルがつけられた。石も木も素材の良さを生かすために、なるべく加工はしない。高価で特別な資材を使わなくても、きれいに頑強な石垣が作られ、木組みができる。福島の庭屋の底力が、やさしい曲線を平面的にも立体的にももつないでいく。それぞれ培ってきた庭屋の心意気を集結し、思う存分に発揮された30平方㍍の限りのない表現だ。

作庭された。その庭には「ゆるやかに登り行（ゆ）く」（中嶋都県造園建設業協会専務理事）

みどりの文 募集開始　県造園建設業協会

県造園建設業協会（相良政博会長）と福島民報社は28日、2023―語―絵「第18回みどりの文」の募集を開始した。「手紙・エッセイ」「絵手紙」「フォト」の3部門で作品を募る。

手紙・エッセイ部門は600字以内（句読点含む）で様式自由。テーマ例は「新しい生活様式with green」「庭の思い出、緑への想い」など。同部門は郵送のほか、同協会ホームページ（http://yoiniwa.net）の専用フォームからも応募できる。

絵手紙部門は官製・私製はがき（107㎜×154㎜以内、通常はがきサイズ厳守）で受け付ける。コピー、スキャンは不可。

フォト部門のサイズは六つ切り、ワイド六つ切り、A4サイズいずれか。緑の風景や庭、街の緑などを被写体とし、裏面にタイトルとその思いを記入すること。

3部門とも締め切りは8月28日（当日消印有効）。部門ごと最優秀賞1人、優秀賞3人、入選6人に賞状と副賞（3～1万円相当）を贈る。9月中旬に審査し、同28日に結果を発表。表彰式は10月下旬を予定している。

日本造園組合連合会、日本造園建設業協会、県建設産業団体連合会、県農林種苗農業協同組合、県都市公園・緑化協会、県森林・林業・緑化協会、日本公園緑地協会、福島建設工業新聞社の8団体が後援する。

審査員は相良会長のほか、井上花子（日本造園組合連合会）、川端清道（日本公園緑地協会企画部調査役）、沢井正樹（福島民報社広告局長）、鷲尾直喜（福島建設工業新聞社代表取締役主幹）の4氏が務める。

応募・問い合わせは同協会へ。〒960－1107福島市上鳥渡字井戸尻11の3。☎024（593）0039（平日午前8時半～午後5時、土・日曜と祝日除く）。

緑豊かなまちづくり

県土木部長　曳地　利光

木々の若葉や青葉が彩り、風薫るさわやかな季節となりました。

都市の緑は、私たちに良好な都市景観と豊かな都市環境を形成するだけでなく、カーボンニュートラルの実現など、地球温暖化対策としての役割についても期待されております。

現在、県では、快適な都市空間の形成に向け、都市における住民の憩いや健康活動の場として都市公園の整備等を進めるとともに、住民に安らぎや潤いを与える緑豊かな都市公園の利活用を推進しております。

緑豊かで快適な都市空間を形成するためには、都市公園だけでなく、商業施設や住宅地も含め、一体的に緑を保全・創出する取組が重要であります。御家庭におかれましても、植栽や生け垣など、身近なところから緑化を進めていただければ幸いです。

県民の皆様におかれましては、5月4日「みどりの日」を機に、緑豊かな自然に親しみ、改めて「みどり」の大切さを御理解いただくとともに、4月から6月までの「春の都市緑化推進運動」におきましては、都市の緑化に一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

「ゆるやかに登り行（ゆ）く」

一般社団法人　県造園建設業協会

会長　相良　政博

日を追うごとに濃淡深浅な緑が鮮やかさを増す頃となり「花と緑のまちづくり」をテーマに春の都市緑化推進運動が始まりました。さらに、今年は、都市公園制度の始まりとされる明治6年の太政官布達から150年の年になり、白河市にある「南湖公園」が日本最古の都市公園であります。また、この150年の間に、公園は、明治から大正は「公園を創る」、昭和は「公園を守る」、平成は「公園を活かす」、そして、令和の時代は「公園を変える」と変遷してきました。公園を変えるは、公園から何かを発信していく、という強い意志が感じられ、暮らしにより密着した多機能な公園の青写真が見られます。が、この長い150年の変遷にも、公園はいつの時代にも暮らしと共に在り続けてきました。

さて、4月26日から6月18日まで54日間にわたり仙台市において「第40回都市緑化仙台フェア」が開催されており、当協会も出展をしております。30㎡の区画には、相馬野馬追をイメージして馬蹄（ばてい）の形のように緩やかに上がっていく径、その径を登りきったところの頭上に広がる空は、智恵子が愛したほんとうの空。中景は、中山風穴（下郷町）のように涼風が吹き抜ける石垣。福島の見逃せない景色を随所に織り込みながら、大好きなふる里「ふくしま」の傷が緩やかでも全て癒えることを心から願って「ゆるやかに登り行（ゆ）く」とタイトルをつけました。ひとつの景に込めた福島ならではの思いを感じていただければと思います。是非足をお運びください。

一般社団法人
福島県造園建設業協会
事務局/福島市上鳥渡字井戸尻11-3　TEL(024)593-0039
FAX(024)593-5959
理事長　理事長　理事長　理事長　理事長　理事長　理事長　専務理事　副会長　副会長
後藤洋伸　佐藤運治　田中吉満　舩山芳浩

福島県造園建設業協会
福島支部
支部長　後藤洋伸　副支部長　佐藤運治
副支部長　田中吉満　副支部長　舩山芳浩
事務局/福島市方木田字仲川原3-28　TEL(024)546-1555